

(続紙 1)

京都大学	博士 (地球環境学)	氏名	岡本 侑樹
論文題目	ベトナム中部タムジャンラグーンにおける漁場環境と生業		
(論文内容の要旨)			
<p>本論文は、学位申請者がベトナム中部トアティエンフエ省の沿岸域でおこなった漁場管理に関する考察を、人びとの漁場利用、漁場環境、現地政府機関による政策という観点から、統合的に論じたものであり、全7章から構成されている。</p>			
<p>第1章では、研究の背景として、調査対象であるラグーンが持つ特性や問題の背景について言及するとともに、開発利用される場でもあったラグーンとそこに暮らす人びとの生業・環境への影響について、日本の事例に触れラグーンの置かれている実状について説明した。また、調査地であるベトナムおよびベトナム中部フエ省の汽水潟について、生態環境特性や主生業である漁業の一例に触れながら概説し、近年、これらの地域が抱える問題と検討を要する課題を明らかにした。</p>			
<p>第2章では、第1章での背景や課題設定を踏まえ、人びとの暮らしと生業とその変容の理解、漁場環境（特に底質環境）の把握、現行の漁場管理政策の妥当性の検討、を目的に掲げ、それぞれの調査方法について、社会調査、文献レビュー、漁場環境調査に分けて記述した。</p>			
<p>第3章では、サム・アンチュルエンラグーンのタンジュン村を調査地として、地域の暮らしや漁場利用の背景について把握するとともに、現地政府による政策、エビ養殖の増加にともなう生態環境への影響、漁場の水面利用権という3つの側面から漁場の利用や形態の変遷を丁寧に読み解き、現在抱えている漁場管理の課題や地域特有の構図を明らかにした。</p>			
<p>第4章では、漁場環境（特に養殖漁場）の底質環境に注目し、底質内の酸揮発性硫化物量や溶存酸素量、流速などの指標を用いて、養殖活動に伴う環境への影響を評価した。これらの環境指標を用いて、底質の粒径組成や酸揮発性硫化物量の変動や空間的な広がりをつえ、雨季（特に洪水）と</p>			

乾季の汽水中の流況の違いが底質環境の変化をもたらすメカニズムと養殖への影響について明らかにし、その仮説モデルを提唱した。

第5章は、現地政府が主導する資源管理政策の妥当性についての総合考察である。ここでは、計画中の政策が現地の人びとに与える影響について、第3章で述べた漁場利用に関する地域特有の事情や第4章で明らかにした漁場環境の特性から、現行の政策の検討すべき点や注目すべき事項に言及しつつ資源管理のあり方を示した。

第6章では、本研究を通じて得られた、対象地域の人々の暮らしや漁場利用の変遷、漁場や底質の生態環境の理解、現地政府機関による政策と人々の暮らしへの影響の評価、他地域への適応の可能性などに関する包括的で社会・生態学的な研究知見を要約した。

(論文審査の結果の要旨)

東南アジアに位置するベトナム社会主義共和国は、ドイモイ政策以降、貧困削減政策に沿って水産養殖事業を推進してきた。他の東南アジア諸国と同様、汽水域開発の多くはエビ養殖によるもので、生態環境への好ましくない影響が指摘されている。本研究の調査地であるトアティエンフエ省の沿岸部の汽水潟においても、同様の問題が起こりつつある。本論文は、このような背景のもと、養殖漁業の拡大に伴う人びとの生業の変化や漁場環境、および政策的な課題について時空間的な変遷も踏まえながら明らかにし、これらの包括的な理解を通じて、地域性を反映した漁場管理のあり方の検討を行なったものである。

本論文の地球環境学を含む学術的な意義は、以下の通りである。

1. 分野横断型研究による包括的な地域の理解

対象地域の汽水域における生態環境学的な知見に加えて、人々の暮らしや村落社会の現状の理解や現地政府による資源管理政策などに関する、網羅的な研究を行なった。人間と資源・生態環境との関わりが生み出す複合的な地域の様相を、生態環境と社会経済の両面から捉えたことは、分野横断型の包括的な取り組みとして学術的にも高く評価できる。

2. 汽水域における生業と漁場環境特性の把握

これまでに詳細が不明であった対象地域の水深や潮位のデータなどを蓄積し、養殖に伴う漁場中の底質への負荷や貧酸素水塊の発生など、漁場環境中のリスクを捉えることができた。また、流況と関連付けての底質の環境変化のメカニズムを明らかにし、そこから導かれる環境負荷の低減を可能とする漁場利用や政策の可能性を議論した。本研究は、水産学や沿岸域生態学、海洋物理学の分野における有用な知見を提供するとともに、汽水域における人々の暮らしや生業と環境の関係の理解を深めることに大きく貢献するといえる。

本論文の社会的な意義やインパクトは、以下の通りである。

1. 漁場利用の変遷の記録による漁民の漁場利用の権利のサポート

長期間にわたる現地滞在と現地語であるベトナム語（フエ弁）を駆使して行なったフィールド研究により得られた、漁場利用の変遷や権利に関する

る詳細な記録は、現地政府による汽水域での資源管理政策に具体的な情報を与える。また、現地政府による漁場からの漁民の強制的な立ち退きが懸念されているが、これらの研究知見は、彼らの生業や権利を主張できる根拠となり、地域社会の今後を考える上で有意義である。

2. 現地の漁場改善への有用な知見の提供

養殖による環境負荷の実態や底質の環境変化のメカニズムの解明は、漁場環境の改善に役立つ知見であり、適正な漁場管理や利用に向けての漁民の取り組みや現地政府による政策の立案に具体的で有用な情報を与えることが期待される。

以上のように、徹底したフィールド調査と実践活動により練り上げられた本研究は、学術と応用実践の両面において沿岸域および陸域生態系管理論を含む地球環境学の発展に大きく貢献したと評価される。よって本論文は博士（地球環境学）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成24年2月15日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行った結果、合格と認めた。

論文内容の要旨及び審査の結果の要旨は、本学学術情報リポジトリに掲載し、公表とする。特許申請、雑誌掲載等の関係により、学位授与後即日公表することに支障がある場合は、以下に公表可能とする日付を記入すること。

要旨公開可能日： 年 月 日以降